

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-17713

(P2021-17713A)

(43) 公開日 令和3年2月15日(2021.2.15)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
E O 4 B 2/76 (2006.01)	E O 4 B 2/76	
E O 4 B 2/74 (2006.01)	E O 4 B 2/74	5 4 1 H
E O 4 B 2/82 (2006.01)	E O 4 B 2/82	5 0 1 K
E O 4 B 9/30 (2006.01)	E O 4 B 2/82	5 0 1 T
	E O 4 B 2/82	5 1 1 F
審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 18 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2019-133000 (P2019-133000)	(71) 出願人	520040315
(22) 出願日	令和1年7月18日 (2019.7.18)		パナソニック建設エンジニアリング株式会社
			東京都品川区東品川4丁目10番27号
		(74) 代理人	110002686
			協明国際特許業務法人
		(72) 発明者	西尾 淳志
			大阪府門真市大字門真1006番地 パナソニック株式会社内
		(72) 発明者	内野 敦司
			東京都品川区東品川4丁目10番27号
			パナソニック建設エンジニアリング株式会社内

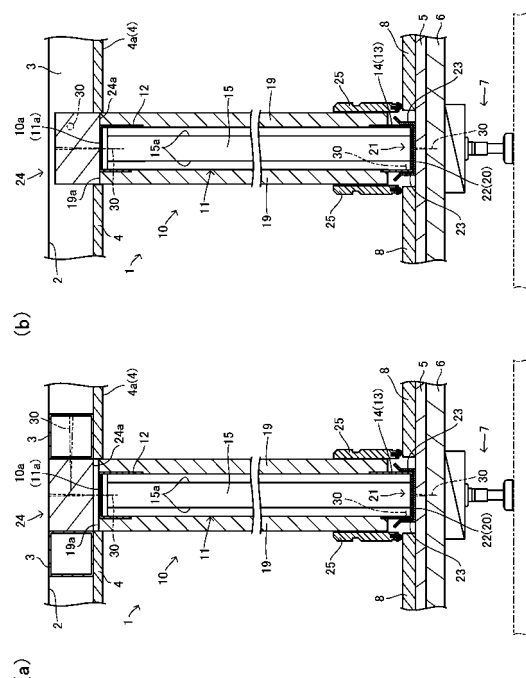
(54) 【発明の名称】 内装壁装置、内装壁構造及び内装壁施工方法

(57) 【要約】

【課題】施工性を向上し得る内装壁装置、内装壁構造及び内装壁施工方法を提供する。

【解決手段】内装壁装置1は、四方枠状とされた金属製の芯材11の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面19aが該芯材の上端面11aと同一平面状となるように面材19が固定されたパネル体10と、パネル幅方向に長尺状とされ、前記パネル体の下端部14が嵌め込まれる上向き開口の受入溝21が設けられ、床側に固定される下端固定部材20と、天井パネル4の下面4aよりも上方側に位置するように平坦面状の下面24aが配され、該下面に前記パネル体の上端面10aが対向された状態で該パネル体の上端部が固定される上端固定部材24と、を備えている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面が該芯材の上端面と同一平面状となるように面材が固定されたパネル体と、

パネル幅方向に長尺状とされ、前記パネル体の下端部が嵌め込まれる上向き開口の受入溝が設けられ、床側に固定される下端固定部材と、

天井パネルの下面よりも上方側に位置するように平坦面状の下面が配され、該下面に前記パネル体の上端面が対向された状態で該パネル体の上端部が固定される上端固定部材と、

を備えていることを特徴とする内装壁装置。

10

【請求項 2】

請求項 1 において、

前記上端固定部材は、前記天井パネルが固定される一方向に長尺状とされた天井下地の側部に固定され、前記パネル体のパネル幅方向に間隔を空けて複数箇所に配設される構成とされていることを特徴とする内装壁装置。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 において、

前記芯材を構成するパネル幅方向両側の縦枠は、四隅に凹段部が設けられた中空筒状とされ、前記凹段部のパネル厚さ方向に沿う深さ寸法は、下地板の厚さ寸法と同寸法とされていることを特徴とする内装壁装置。

20

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項において、

前記下端固定部材の受入溝の溝幅方向両側を区画する側片部の上端側部位は、上方側に向かうに従い拡開状とされていることを特徴とする内装壁装置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項において、

前記芯材を構成する上枠には、配線用の開口が設けられていることを特徴とする内装壁装置。

【請求項 6】

四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面が該芯材の上端面と同一平面状となるように面材が固定されたパネル体の下端部が、パネル幅方向に長尺状とされ、床側に固定された下端固定部材に設けられた上向き開口の受入溝に嵌め込まれ、

30

天井パネルの下面よりも上方側に位置するように平坦面状の下面が配された上端固定部材の該下面に、前記パネル体の上端面が対向された状態で該パネル体の上端部が該上端固定部材に固定されていることを特徴とする内装壁構造。

【請求項 7】

請求項 6 において、

前記面材の上端部の表面に側端面を当接させて前記天井パネルが天井下地に固定されていることを特徴とする内装壁構造。

40

【請求項 8】

請求項 6 または 7 において、

前記下端固定部材は、床下地を支持する支持脚の直上に位置するように配され、かつ受入溝の溝底を区画する溝底片部の溝幅方向中央部に固着具が止着されて前記床下地に固定されていることを特徴とする内装壁構造。

【請求項 9】

パネル幅方向に長尺状とされ、上向き開口の受入溝が設けられた下端固定部材を床側に固定する工程と、

四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面が該芯材の上端面と同一平面状となるように面材が固定されたパネル体の下端部を前記下端固定部

50

材の受入溝に嵌め込む工程と、

天井パネルの下面よりも上方側に位置するように平坦面状の下面が配される上端固定部材の該下面に、前記パネル体の上端面を対向させた状態で該パネル体の上端部を該上端固定部材に固定する工程と、

を備えていることを特徴とする内装壁施工方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内装壁装置、内装壁構造及び内装壁施工方法に関する。

【背景技術】

【0002】

従来一般的な建物の内装壁は、木軸や鉄骨等の壁下地に内装ボードを固定した構造とされていた。このような構造では、壁下地の施工に手間が掛かったり、ばらつきが生じたりし易いという問題があった。

例えば、下記特許文献1には、四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方向に面材が固定されたパネル体の上端部及び下端部を固定する各固定部材に、位置決め片部を設けた構成とされた内装壁装置が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2017-82577号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記特許文献1に記載された内装壁装置では、天井側の上端固定部材の下方側に向けて突出する位置決め片部に、芯材の上端部を当接させてパネル体の上端部を固定する構成とされている。そのため、パネル体の上端部において芯材の上端部が露出し、これを覆うように補助面材を固定したり、天井パネルとの入隅部に沿わせて廻縁を固定したりする必要があった。

【0005】

本発明は、上記実情に鑑みてなされたものであり、施工性を向上し得る内装壁装置、内装壁構造及び内装壁施工方法を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本発明に係る内装壁装置は、四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面が該芯材の上端面と同一平面状となるように面材が固定されたパネル体と、パネル幅方向に長尺状とされ、前記パネル体の下端部が嵌め込まれる上向き開口の受入溝が設けられ、床側に固定される下端固定部材と、天井パネルの下面よりも上方側に位置するように平坦面状の下面が配され、該下面に前記パネル体の上端面が対向された状態で該パネル体の上端部が固定される上端固定部材と、を備

【0007】

また、上記目的を達成するために、本発明に係る内装壁構造は、四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面が該芯材の上端面と同一平面状となるように面材が固定されたパネル体の下端部が、パネル幅方向に長尺状とされ、床側に固定された下端固定部材に設けられた上向き開口の受入溝に嵌め込まれ、天井パネルの下面よりも上方側に位置するように平坦面状の下面が配された上端固定部材の該下面に、前記パネル体の上端面が対向された状態で該パネル体の上端部が該上端固定部材に固定されていることを特徴とする。

【0008】

10

20

30

40

50

また、上記目的を達成するために、本発明に係る内装壁施工方法は、パネル幅方向に長尺状とされ、上向き開口の受入溝が設けられた下端固定部材を床側に固定する工程と、四方枠状とされた金属製の芯材の少なくともパネル厚さ方向一方面に、上端面が該芯材の上端面と同一平面状となるように面材が固定されたパネル体の下端部を前記下端固定部材の受入溝に嵌め込む工程と、天井パネルの下面よりも上方側に位置するように平坦面状の下面が配される上端固定部材の該下面に、前記パネル体の上端面を対向させた状態で該パネル体の上端部を該上端固定部材に固定する工程と、を備えていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

本発明に係る内装壁装置、内装壁構造及び内装壁施工方法は、上述のような構成としたことで、施工性を向上させることができる。 10

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】(a)、(b)は、本発明の一実施形態に係る内装壁装置の一例及び本発明の一実施形態に係る内装壁構造の一例を模式的に示す一部破断概略縦断面図である。

【図2】(a)は、図1(a)に対応させた一部破断概略斜視図、(b)は、図1(b)に対応させた一部破断概略斜視図である。

【図3】(a)～(c)は、同内装壁装置が備えるパネル体の一例をそれぞれ模式的に示す概略横断面図である。

【図4】(a)、(b)は、本発明の一実施形態に係る内装壁施工方法の一例を模式的に示す一部破断概略縦断面図である。 20

【図5】同内装壁施工方法の一例を模式的に示す一部破断概略斜視図である。

【図6】(a)は、同内装壁施工方法の一例を模式的に示す一部破断概略横断面図、(b)、(c)は、同内装壁構造の一例をそれぞれ模式的に示す一部破断概略横断面図である。

【図7】(a)、(b)は、同内装壁構造の一例をそれぞれ模式的に示す一部破断概略横断面図である。

【図8】(a)、(b)は、同内装壁装置の変形例及び同内装壁構造の変形例をそれぞれ模式的に示し、(a)は、一部破断概略縦断面図、(b)は、一部破断概略斜視図である。 30

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下に本発明の実施の形態について、図面に基づいて説明する。

なお、一部の図では、他図に付している詳細な符号の一部を省略している。

また、以下の実施形態では、内装壁装置を設置した状態を基準として、上下方向等の方向を説明する。

【0012】

図1～図8は、本実施形態に係る内装壁装置、内装壁構造及び内装壁施工方法の一例及び変形例を模式的に示す図である。

本実施形態に係る内装壁装置1は、図1(a)、(b)に示すように、四方枠状とされた金属製の芯材11の少なくともパネル厚さ方向一方面に、上端面19aが芯材11の上端面11aと同一平面状となるように面材19が固定されたパネル体10を備えている。このような構成とすれば、芯材11の四方枠を木製としたものと比べて、パネル体10に反り等が生じ難くなり、移設等による再利用性も向上させることができる。 40

【0013】

また、内装壁装置1は、パネル幅方向に長尺状とされ、パネル体10の下端部14が嵌め込まれる上向き開口の受入溝21が設けられ、床側に固定される下端固定部材20を備えている。このような構成とすれば、床側に固定された下端固定部材20に対してパネル体10の下端部14を嵌め込んでパネル体10の下端部14を保持させることができる。これにより、パネル体10の下端部14を位置決め片部に当接させて固定する構成とされ 50

たものと比べて、パネル体 10 の下端側を容易に固定することができ、ねじ等の固着具を略使用することなく固定することもできる。また、受入溝 21 の溝幅方向両側を区画する側片部 23, 23 によってパネル体 10 の下端部 14 を挟むように保持することができるので、パネル体 10 の下端側の厚さ方向に沿う位置決めを確実に控え、また、パネル体 10 の下端側の厚さ方向への保持強度を向上させることができる。

【0014】

また、内装壁装置 1 は、天井パネル 4 の下面 4a よりも上方側に位置するように平坦面状の下面 24a が配され、この下面 24a にパネル体 10 の上端面 10a が対向された状態でパネル体 10 の上端部が固定される上端固定部材 24 を備えている。このような構成とすれば、上端固定部材 24 が天井パネル 4 の下面 4a よりも下方側に突出するようなことがない。また、芯材 11 の上端部が面材 19 によって覆われているので、パネル体 10 の上端部に補助面材を設けたり、天井パネル 4 との入隅部に沿わせて廻縁を固定したりする必要がなく、施工性を向上させることができる。

【0015】

本実施形態では、上端固定部材 24 は、図 2 (a)、(b) に示すように、天井パネル 4 が固定される一方向に長尺状とされた天井下地を構成する野縁 3 の側部に固定され、パネル体 10 のパネル幅 (壁幅) 方向に間隔を空けて複数箇所に配設される構成とされている。このような構成とすれば、パネル体 10 のパネル幅方向の複数箇所を上端固定部材 24 に固定することができ、パネル体 10 の上端側を安定的に固定することができる。また、野縁 3 の上方側の天井懐の上下寸法が小さい場合には、上端固定部材としての野縁 3 の上方側からパネル体 10 の上端部にねじ等の固着具 30 を止着し難い場合がある。上記構成によれば、このような場合にも、野縁 3 の側部に固定される上端固定部材 24 を介してパネル体 10 の上端部を安定的に固定することができる。

【0016】

この内装壁装置 1 の施工対象となる建物としては、戸建住宅や集合住宅等の住宅に限られず、商業施設や公共施設等の他の建物等としてもよく、当該内装壁装置 1 は、種々の箇所に設置可能である。

また、この内装壁装置 1 の天井側の固定対象、つまり、上端固定部材 24 の固定対象となる野縁 3 は、木造下地を構成するものでもよいが、図例では、四角筒状の LGS (軽量形鋼) 等からなり鋼製下地を構成するものとされている。この野縁 3 は、適宜の野縁受 2 に保持されている。このような野縁受 2 としては、吊ボルトに連結されたハンガーに吊り下げ支持され、クリップを介して野縁 3 を支持する構成とされたものでもよい。また、野縁受 2 としては、対向する壁下地に固定され、野縁 3 の長手方向の各端部を受け入れる受入溝が設けられたようなものでもよい。

【0017】

また、内装壁装置 1 の床側の固定対象、つまり、下端固定部材 20 の固定対象は、床材 8 でもよいが、図例では、床下地 5, 6 としている。このような床下地 5, 6 としては、LGS (軽量形鋼) 等の鋼製下地や、木造下地でもよく、例えば、根太や床下地ボード等としてもよく、さらには、床スラブとしてもよい。図例では、床スラブ等に設けられた支持脚 7 に、床下地 5, 6 を構成する床下地ボードを支持させた二重床構造とした例を示している。床側の固定対象を、このような二重床構造の床下地 5, 6 とし、天井側の固定対象を、上記のような吊天井構造の天井下地を構成する野縁 3 とすれば、間取り変更等に容易かつ柔軟に対応することができる。

また、図例では、床下地 5, 6 として二枚の床下地ボードを積層した例を示している。このような床下地ボードとしては、合板や LVL (単板積層材) 等の木質積層板や、パーティクルボード等の木質ボードなどのベースボード及びこのベースボードに積層される補強ボードとしてもよい。また、補強ボードとしては、無機質材を主原料とする不燃ボードや表裏にガラス繊維等の強化クロス (不織布) を貼着した構成とされたものとしてもよい。当該内装壁装置 1 の天井側及び床側の固定対象 3, 5, 6 としては、その他、種々の変形が可能である。

10

20

30

40

50

【0018】

パネル体10は、図3(a)及び図5に示すように、略矩形平板状とされている。このパネル体10の上下寸法は、床下地5から野縁3までの上下寸法(天井高)に応じて、適宜の寸法とされたものでもよく、例えば、2000mm~3000mm程度であってもよい。また、このパネル体10の上下寸法は、床側に固定された下端固定部材20の受入溝21の溝底を区画する溝底片部22から野縁3の下面までの上下方向に沿う寸法に応じた寸法であってもよい。図例では、パネル体10の上下寸法を、後記するように施工する際にパネル体10が野縁3に干渉しないように、溝底片部22から野縁3の下面までの上下方向に沿う寸法よりも僅かに小さい寸法とした例を示している。このパネル体10の上下寸法は、パネル体10の上端面10aから野縁3の下面までの上下方向に沿う寸法が天井パネル4の厚さ未満、好ましくは、天井パネル4の厚さの2/3以下となるように適宜の寸法としてもよい。

10

また、このパネル体10の幅寸法は、取扱性や施工性等の観点から適宜の寸法とされたものでもよく、例えば、150mm~1500mm程度であってもよい。

また、上下寸法及び幅寸法のうちの両方または一方を異ならせた複数種の規格化されたパネル体10を備えた構成としてもよい。例えば、150mm等の所定寸法を整数倍した幅寸法の面材19をパネル厚さ方向の少なくとも一方面にそれぞれに設けた複数種のパネル体10を備えた構成としてもよい。

【0019】

芯材11は、図1(a)、(b)及び図3(a)に示すように、パネル幅方向に延びる上枠12及び下枠13と、上下方向に延びるパネル幅方向両側の縦枠15、15と、を備えた四方枠状とされている。この芯材11は、LGS(軽量形鋼)等の金属系型材を枠組みして形成されたものとしてもよい。本実施形態では、上枠12及び下枠13を、互いに向き合う方向に開口する長手方向に見て略コ字状(略U字状)とされた溝形鋼状(チャンネル状)のものとし、両側の縦枠15、15を、筒形状とされたものとしている。このような構成とすれば、芯材11(パネル本体10)の軽量化を図ることができる。これら上枠12及び下枠13の溝を区画する各片部の厚さ及び縦枠15、15の筒を区画する筒壁部の厚さは、0.5mm~1.5mm程度でもよい。

20

【0020】

上枠12及び下枠13は、互いに同様の構成とされている。図例では、これら上枠12及び下枠13の溝幅方向両側を区画する両側片部のうちの一方の上下方向に沿う寸法を他方よりも大とした例を示しているが、このような態様に限られない。

30

また、本実施形態では、上枠12に、配線用の開口12aを設けた構成としている(図2(b)も参照)。このような構成とすれば、この配線用の開口12aを介して種々のケーブルをパネル体10内に引き込むことができる。また、上枠12の長手方向に間隔を空けて複数(図例では4つ)の配線用の開口12aを設けた構成としている。

この配線用の開口12aは、上枠12の溝底を区画する溝底片部を貫通するように設けられている。この配線用の開口12aの径や個数は、ケーブル挿通性の観点や上枠12の強度上の観点等から適宜の径や個数としてもよい。

【0021】

40

また、本実施形態では、両側の縦枠15、15間に、中間縦枠15Aを設けた構成としている。この中間縦枠15Aは、パネル体10の幅寸法が小さい場合には、設けていない構成としてもよい。例えば、パネル体10の幅寸法が一般的な間柱(スタッド)のピッチよりも大である場合には、中間縦枠15Aを設け、パネル体10の幅寸法が一般的な間柱(スタッド)のピッチ以下である場合には、中間縦枠15Aを設けていない構成としてもよい。

また、これら両側の縦枠15、15及び中間縦枠15Aは、互いに同様の構成とされている。これら両側の縦枠15、15及び中間縦枠15Aのパネル厚さ方向に沿う寸法やパネル幅方向に沿う寸法は、一般的な間柱(スタッド)と同程度の寸法でもよいが、これよりも大としてもよい。図例では、これら両側の縦枠15、15及び中間縦枠15Aのパネ

50

ル幅方向に沿う寸法を、パネル厚さ方向に沿う寸法よりも大とした例を示している。

【0022】

また、本実施形態では、両側の縦枠15、15は、四隅に凹段部15a、15a、15a、15aが設けられた中空筒状とされている。このような構成とすれば、縦枠15を四角筒状としたものと比べて、強度を向上させることができ、パネル体10の撓みを効果的に抑制することができ、パネル幅寸法に応じて必要となる縦枠15（中間縦枠15A）の本数を減らすこともできる。また、中間縦枠15Aも同様、四隅に凹段部15a、15a、15a、15aが設けられた中空筒状とされている。

また、凹段部15aのパネル厚さ方向に沿う深さ寸法を、下地板18（図3（c）参照）の厚さ寸法と同寸法としている。このような構成とすれば、パネル幅方向に隣り合う縦枠15、15（中間縦枠15A）の凹段部15a、15aに下地板18のパネル幅方向両側端部を係合させて下地板18を縦枠15、15（中間縦枠15A）に対して固定することができる。これにより、四角筒状とされた縦枠に下地板固定用金具を介して下地板18を固定する必要があるようなものと比べて、下地板18の組付性を向上させることができる。

【0023】

凹段部15aは、パネル厚さ方向外側及びパネル幅方向外側に向けて開口するように設けられている。この凹段部15aのパネル厚さ方向に沿う深さ寸法は、一般的な下地板18としての規格化された合板等の厚さに応じた厚さ、例えば、9mmや12mm、15mm等でもよい。また、凹段部15aのパネル幅方向に沿う幅寸法は、下地板18の端部を受け入れてねじ等の固着具によって縦枠15（中間縦枠15A）に対して固定可能なように適宜の寸法としてもよい。図例では、凹段部15aの幅寸法を、凹段部15aの深さ寸法と略同寸法とした例を示している。

縦枠15及び中間縦枠15Aは、四隅の凹段部15aによって長手方向に見て略＋状の外郭形状とされている。これら縦枠15及び中間縦枠15Aは、外周側の四隅に凹段部15aが形成されるように、内周側の四隅に突段部を設けたような構成とされている。

【0024】

なお、芯材11は、これら両側の縦枠15、15及び中間縦枠15Aの上下端部が上枠12及び下枠13の溝に嵌め入れられて枠組みされたものでもよい。

また、上記のような態様に代えて、四角筒形状とされた上枠12及び下枠13と両側の縦枠15、15及び中間縦枠15Aとが溶接等によって接合された構成とされた芯材11としてもよい。また、溝形状や筒形状とされた枠材を枠組みした構成とされた芯材11に限られず、四角柱状の枠材を枠組みした構成とされたものとしてもよい。また、芯材11としては、枠組み形成されたものに限られず、四方枠状に一体成形されたものとしてもよい。

また、芯材11としては、上枠12、下枠14、縦枠15及び中間縦枠15Aを備えた構成に加えて、中間横枠を備えたものでもよい。また、この芯材11の中空部に、ハニカムコア等のコア材等が充填されたものとしてもよく、グラスウールや発泡材等の吸音材や断熱材等が充填されたものとしてもよい。また、下地板18は、パネル体10の上下方向の全体に亘って設けられている必要はなく、また、全てのパネル体10に設けられている必要はない。また、図3（c）では、下地板18を、パネル厚さ方向一方側のみに設けた例を示しているが、パネル厚さ方向両側に設けた構成としてもよい。

【0025】

芯材11の少なくともパネル厚さ方向一方面に固定された面材19は、一般的な壁下地ボードでもよく、例えば、石膏ボード（プラスターボード）でもよい。なお、面材19としては、木質積層板や木質ボードでもよく、さらにはインシュレーションボードやMDF（中密度繊維板）、ハードボード等の木質繊維板でもよい。

この面材19の厚さ寸法は、一般的な壁下地ボードの厚さ寸法と同程度の寸法でもよく、例えば、5mm～25mm程度としてもよく、9.5mmや12.5mmのように規格化された寸法であってもよい。

10

20

30

40

50

図 1 では、芯材 11 のパネル厚さ方向両面に面材 19, 19 が固定されたパネル体 10 を例示している。つまり、パネル体 10 は、中空部を構成する芯材 11 の両側に面材 19, 19 を設けたフラッシュパネル状とされている。これら面材 19, 19 は、芯材 11 に対してねじ等の固着具や、接着剤等によって固定されたものとしてもよい。また、このパネル体 10 は、工場等の施工現場外において予めパネル化されたものでもよい。

【0026】

これら面材 19, 19 は、上端面 19a, 19a が芯材 11 の上端面 11a と同一平面状となるように固定されている。これら面材 19, 19 の上端面 19a, 19a と芯材 11 の上端面 11a とが同一平面状とは、完全に同一平面状とされたものに限られず、上下方向に沿う方向で例えば 2mm 程度のずれがあるようなものも含む。

また、本実施形態では、図 1 及び図 4 に示すように、パネル体 10 の面材 19, 19 を、芯材 11 の下端部 14 が露出するように固定した構成としている。つまり、面材 19, 19 の上下寸法を、芯材 11 の上下寸法よりも小としている。また、パネル厚さ方向両側の面材 19, 19 の上下寸法を同寸法とし、パネル厚さ方向の両側において露出する芯材 11 の下端部 14 の上下寸法を互いに同寸法としている。この下端部 14 の上下寸法は、後記する下端固定部材 20 の側片部 23 に面材 19 が干渉しないように適宜の寸法とされている。また、下端部 14 の上下寸法は、後記するように幅木 25 を設ける場合には、下端部 14 が幅木 25 によって覆い隠せるように、幅木 25 の上下方向に沿う寸法よりも小としてもよい。

【0027】

これら面材 19, 19 は、パネル厚さ方向に見て、四周端部が全周に亘って芯材 11 の四方枠を構成する上枠 12、下枠 13 及び両側の縦枠 15, 15 に重なるように芯材 11 に固定されている。つまり、パネル厚さ方向両側に開口する芯材 11 の開口の全体を、両側の面材 19, 19 によって覆った構成としている。

また、内装壁装置 1 は、図 3 (a) ~ (c) に示すように、パネル幅方向両側端部の構成が異なる複数種のパネル体 10, 10A, 10B を備えている。

図 3 (a) に示すパネル体 10 は、パネル幅方向一方側端部に芯材 11 からなる突部 16 が形成され、パネル幅方向他方側端部に凹部 17 が形成されるように、面材 19, 19 を芯材 11 に固定した構成とされている。つまり、両側の面材 19, 19 を、芯材 11 のパネル幅方向一方側端部が露出するように固定してパネル幅方向一方側端部に突部 16 を設けた構成としている。また、両側の面材 19, 19 を、芯材 11 よりもパネル幅方向他方側に突出させて固定してパネル幅方向他方側端部に凹部 17 を設けた構成としている。

【0028】

突部 16 は、パネル幅方向一方側に向けて突出するように、かつ上下に延びるように設けられている。図例では、突部 16 のパネル幅方向に沿う突出寸法を、縦枠 15 のパネル幅方向に沿う寸法の 1/2 程度の寸法とした例を示している。

凹部 17 は、パネル幅方向他方側に向けて開口するように、かつ上下に延びるように設けられている。

つまりは、パネル体 10 は、パネル幅方向一方側に雄実状の突部 16 を設け、パネル幅方向他方側に雌実状の凹部 17 を設けた構成とされている。この凹部 17 のパネル幅方向に沿う深さ寸法は、他のパネル体 10 の突部 16 の嵌め入れが可能なように適宜の寸法とされている。図例では、この凹部 17 の深さ寸法を、上記した突部 16 の突出寸法と概ね同寸法とした例を示している。

【0029】

図 3 (b) に示すパネル体 10A は、パネル幅方向両側端部に、上記同様な雄実状の突部 16, 16 を設けた構成とされている。

図 3 (c) に示すパネル体 10B は、パネル幅方向両側端部に、上記同様な雌実状の凹部 17, 17 を設けた構成とされている。パネル幅方向両端側にこのような突部 16 や凹部 17 が設けられた種々のパネル体 10, 10A, 10B を備えた構成とすることで、これらパネル体 10, 10A, 10B を、間取り等に応じて種々の組み合わせでパネル幅方

向に接合したり、開口部や外壁側部位で納めたりすることができる。

【0030】

また、本実施形態では、内装壁装置1は、図8(a)に示すように、芯材11のパネル厚さ方向一方向のみに面材19が固定されたパネル体10Cを備えた構成とされている。このようなパネル体10Cを備えた構成とすれば、このパネル体10Cを、集合住宅等の戸境壁や外壁、浴室ユニットの壁パネル等の壁面9に沿わせるようにふかし壁状に好適に配設することができる。このパネル体10Cは、上記同様、芯材11のパネル厚さ方向一方向の下端部14を露出させるように面材19を固定した構成とされている。なお、このパネル体10Cの面材19を、上記と概ね同様、芯材11のパネル幅方向両端部の両方または一方を露出させるように固定したり、芯材11よりもパネル幅方向両方または一方側に突出させるように固定したりした構成としてもよい。なお、以下では、これらパネル体10, 10A, 10B, 10Cの区別を要しない場合には、パネル体10を例にとって説明する。

10

【0031】

下端固定部材20は、図1及び図5に示すように、長手方向に見て上向きに開口する略コ字状（略U字状）とされている。この下端固定部材20は、受入溝21の溝底を区画する溝底片部22と、受入溝21の溝幅方向両側を区画する両側の側片部23, 23と、を備えている。溝底片部22は、厚さ方向を上下方向に沿わせて配される薄板状とされている。

また、本実施形態では、両側の側片部23, 23の上端側部位は、上方側に向かうに従い拡開状とされた傾斜片部23a, 23aとされている。このような構成とすれば、パネル体10の下端部14を下端固定部材20の受入溝21に容易に嵌め込むことができ、施工性をより向上させることができる。

20

両側の側片部23, 23の下端側部位は、溝底片部22に対して略直交状に立ち上がるように設けられている。これら側片部23, 23の下端側部位は、厚さ方向をパネル厚さ方向に沿わせて配される薄板状とされている。

【0032】

両側の側片部23, 23の傾斜片部23a, 23aは、溝底片部22に対して略直交状とされた側片部23, 23の下端側部位に対して溝幅方向外側に向けて屈曲するように設けられている。傾斜片部23aを含む側片部23のパネル厚さ方向に沿う寸法（側片部23の内面から傾斜片部23aの先端までのパネル厚さ方向に沿う寸法）は、面材19の厚さ寸法よりも小とされている。つまり、これら傾斜片部23a, 23aは、パネル体10の下端部14が受入溝21に嵌め込まれた状態で、パネル体10の厚さ方向両側の面材19, 19の表面からパネル厚さ方向外側に突出しないように設けられている。

30

また、これら傾斜片部23a, 23aの水平面に対する傾斜角度は、パネル体10の下端部14の嵌め入れ性の観点や、パネル体10下端部14周囲に配される部材との干渉を抑制する観点等から適宜の角度としてもよい。図例では、これら傾斜片部23a, 23aの水平面に対する傾斜角度を45度程度とした例を示している。

【0033】

また、この下端固定部材20の側片部23, 23の下端側部位間の寸法（受入溝21の溝幅寸法）は、パネル体10の下端部14のパネル厚さ方向に沿う寸法に応じた寸法とされている。この受入溝21の溝幅寸法は、パネル体10の下端部14のパネル厚さ方向に沿う寸法よりも僅かに大としてもよい。

40

また、受入溝21の溝深さ寸法は、パネル体10の下端部14の嵌め入れ性や保持性の観点等から適宜の寸法としてもよい。図例では、受入溝21の溝深さ寸法を、受入溝21の溝幅寸法よりも小とした例を示している。この受入溝21の溝深さ寸法は、上記のような傾斜片部23a, 23aを設けた場合には、傾斜片部23a, 23aよりも溝底側の溝深さ寸法が5mm以上、好ましくは、10mm以上となるように適宜の寸法としてもよい。

また、この下端固定部材20は、スチール等の金属系材料から形成されたものでもよい。

50

。このような構成とすれば、下端固定部材 20 を、押出成形によって製造することができ、効率的に製造可能で、かつ縦断面形状の寸法精度を向上させることができる。なお、この下端固定部材 20 の溝底片部 22 及び側片部 23、23 の厚さは、0.5 mm～1.5 mm 程度でもよい。

【0034】

また、この下端固定部材 20 の長さ寸法は、取扱性や施工性等の観点から適宜の寸法でもよく、例えば、500 mm～4000 mm 程度であってもよい。

また、この下端固定部材 20 は、ねじ等の固着具 30 によって床下地 5、6 に固定されるものでもよい。また、この下端固定部材 20 は、溝底片部 22 の溝幅方向中央部に固着具 30 が止着されるものでもよい。この場合は、溝底片部 22 の溝幅方向中央部に、溝長手方向に延びる固着具 30 の止着箇所を目安となる目印溝を設けたり、固着具 30 の挿通孔や下穴等を溝長手方向に間隔を空けて設けたりしてもよい。また、この下端固定部材 20 は、長手方向や直交状に隣接される他の下端固定部材 20 との間に適宜の隙間を設けて床下地 5、6 に固定されるものでもよい。

【0035】

上端固定部材 24 は、下面 24a が全面に亘って平坦面状とされている。本実施形態では、上端固定部材 24 は、図 2 に示すように、ブロック状（直方体状）とされている。また、この上端固定部材 24 は、パネル厚さ方向に沿う寸法がパネル体 10 の厚さ寸法と略同寸法とされている。このような構成とすれば、図 1（a）及び図 2（a）に示すように、パネル体 10 を、幅方向を野縁 3 の長手方向に沿わせて配設する際に、パネル体 10 の厚さ方向両側の天井パネル 4、4 の側端部を両側の野縁 3、3 に対して安定的に固定することができる。つまり、パネル体 10 の上方側に配される上端固定部材 24 を挟むようにパネル厚さ方向両側に野縁 3、3 を配設することで、これら野縁 3、3 にパネル体 10 の厚さ方向両側の天井パネル 4、4 の側端部を固定することができる。また、図 1（b）及び図 2（b）に示すように、パネル体 10 を、幅方向を野縁 3 の長手方向に直交させて配設する際に、パネル体 10 の厚さ方向両側の天井パネル 4、4 の側端面をパネル体 10 の厚さ方向両面に安定的に突き合わせることができる。つまり、パネル体 10 の上端面 10a と野縁 3 との間に隙間がある場合にも、上端固定部材 24 の下面 24a をパネル体 10 の上端面 10a に当接させることで、両側の天井パネル 4、4 の側端面をパネル体 10 及び上端固定部材 24 に突き合わせることができる。

【0036】

また、本実施形態では、この上端固定部材 24 のパネル厚さ方向に沿う寸法とパネル幅方向に沿う寸法とを略同寸法としている。つまり、上端固定部材 24 を、平面視して略正形状としている。このような構成とすれば、上端固定部材 24 を、パネル厚さ方向及びパネル幅方向のいずれの方向に沿わせた場合にも、同方向に沿う寸法がパネル体 10 の厚さ寸法と略同寸法となるので、施工性を向上させることができる。

また、本実施形態では、この上端固定部材 24 の上下方向に沿う寸法を、野縁 3 の上下方向に沿う寸法以下としている。図例では、上端固定部材 24 の上下方向に沿う寸法を、野縁 3 の上下方向に沿う寸法と略同寸法とした例を示している。このような構成とすれば、野縁 3 の上方側に配される部材や機器等への上端固定部材 24 の干渉を抑制することができる。

【0037】

なお、この上端固定部材 24 は、金属系材料や合成樹脂系材料から形成されたものでもよいが、ブロック状とした場合には、固着具 30 の止着性の観点等から木質系材料から形成されたものでもよい。

また、この上端固定部材 24 は、野縁 3 を設けるピッチ（例えば、300 mm～500 mm 程度）と同程度のピッチでパネル幅方向に沿って間隔を空けて配設されるものでもよい。この場合において幅寸法が上記ピッチよりも小さいパネル体 10 を固定する場合には、一つの上端固定部材 24 に固定するようにしてもよい。なお、図 2（a）、（b）では、パネル幅方向に隣り合う上端固定部材 24、24 間のピッチを比較的に小さくした例を

示しているが、このような態様に限られない。

また、この上端固定部材 2 4 は、パネル体 1 0 を、幅方向を野縁 3 の長手方向に直交させて配設する際には、上枠 1 2 に設けられた配線用の開口 1 2 a の全てが覆われないように配設されるものでもよい。

【0038】

次に、本実施形態に係る内装壁施工方法の一例について図面を参照して説明する。

本実施形態に係る内装壁施工方法は、図 4 (a) に示すように、床下地 5, 6 及び天井下地を構成する野縁受 2 や野縁 3 を施工した状態でなされる。また、同施工方法は、パネル幅方向に長尺状とされ、上向き開口の受入溝 2 1 が設けられた下端固定部材 2 0 を床側に固定する工程を備えている。本実施形態では、この下端固定部材 2 0 を、床下地 5, 6 を支持する支持脚 7 の直上に位置するように配した状態で、溝底片部 2 2 の溝幅方向中央部に固着具 3 0 を止着して床下地 5, 6 に固定するようにしている。この下端固定部材 2 0 は、長手方向に沿って所定ピッチ（例えば、300mm 程度）で複数箇所に固着具 3 0 を止着して床下地 5, 6 に固定するようにしてもよい。

【0039】

上記のように下端固定部材 2 0 が設置された本実施形態に係る内装壁構造は、下端固定部材 2 0 が支持脚 7 の直上に位置するように配され、かつ溝底片部 2 2 の溝幅方向中央部に固着具 3 0 が止着されて床下地 5, 6 に固定されている。このような構成とすれば、下端固定部材 2 0 の溝底片部 2 2 に千鳥状に固着具 3 0 を止着したものと比べて、下端固定部材 2 0 の溝底片部 2 2 が中央部を支点として弾性変形し易くなる。これにより、床の沈み込みによるパネル体 1 0 の移動を吸収し易くなり、下端に防振ゴムを設けた防振支持脚を採用することもできる。また、後記するように、パネル体 1 0 の下端側を、固着具 3 0 を略使用することなく下端固定部材 2 0 の受入溝 2 1 に嵌め込んで固定することができる。これにより、固着具 3 0 による締結部を少なくすることができ、床が沈み込んだ場合に生じ易い締結部における異音を生じ難くすることができる。

【0040】

また、同施工方法は、芯材 1 1 の少なくともパネル厚さ方向一方向に、上端面 1 9 a が芯材 1 1 の上端面 1 1 a と同一平面状となるように面材 1 9 が固定されたパネル体 1 0 の下端部 1 4 を下端固定部材 2 0 の受入溝 2 1 に嵌め込む工程を備えている。また、同施工方法は、天井パネル 4 の下面 4 a よりも上方側に位置するように平坦面状の下面 2 4 a が配される上端固定部材 2 4 の下面 2 4 a に、パネル体 1 0 の上端面 1 0 a を対向させた状態でパネル体 1 0 の上端部を上端固定部材 2 4 に固定する工程を備えている。

【0041】

図 4 (a) に示すように、野縁 3 の長手方向に幅方向に沿わせてパネル体 1 0 を設置する場合には、パネル厚さ方向両側の野縁 3, 3 間に上端固定部材 2 4 を挟むように固定した状態で、パネル体 1 0 を設置するようにしてもよい（図 2 (a) も参照）。この場合、固定された一方の野縁 3 に対して他方の野縁 3 を移動させてこれらの間に隙間なく上端固定部材 2 4 を配設するようにしてもよい。なお、図例では、パネル厚さ方向両側の野縁 3, 3 のうちの一方の側方側から止着した固着具 3 0 によって上端固定部材 2 4 を固定した例を示しているが、このような態様に限られない。

また、図 4 (a)、(b) に示すように、パネル体 1 0 を、斜め状にしてその下端部 1 4 を下端固定部材 2 0 の受入溝 2 1 に嵌め込み、起立させてパネル体 1 0 の上端部を上端固定部材 2 4 に固定するようにしてもよい。このような場合には、図例のように、パネル体 1 0 の上端部が野縁 3 に干渉しないように、パネル体 1 0 の上端面 1 0 a と野縁 3 及び上端固定部材 2 4 の下面 2 4 a との間に隙間が形成される。また、図例では、上端固定部材 2 4 の上方側からパネル体 1 0 の上枠 1 2 に向けて固着具 3 0 を止着した例を示している。

【0042】

一方、野縁 3 の長手方向に幅方向を直交させてパネル体 1 0 を設置する場合には、野縁 3 の側部に当接可能な位置となるように、予めパネル体 1 0 の上端部を上端固定部材 2 4

を固定した状態でパネル体 10 を設置するようにしてもよい（図 2（b）参照）。つまり、上端部に上端固定部材 24 が固定された状態のパネル体 10 を、斜め状にしてその下端部 14 を下端固定部材 20 の受入溝 21 に嵌め込み、起立させ、上端固定部材 24 を野縁 3 に対して固着具 30 によって固定するようにしてもよい。なお、野縁 3 の長手方向に幅方向を沿わせてパネル体 10 を設置する場合にも、予めパネル体 10 の上端部に上端固定部材 24 を固定した状態でパネル体 10 を起立させ、一方の野縁 3 に対して上端固定部材 24 を固定するようにしてもよい。そして、この上端固定部材 24 に他方の野縁 3 を当接させるようにして他方の野縁 3 を施工するような態様等としてもよい。

【0043】

また、このように設置されたパネル体 10 の幅方向に隣接されるパネル体 10 を設置する。図 5 及び図 6（a）に示すように、一方のパネル体 10 の突部 16 を他方のパネル体 10 の凹部 17 に嵌め込むように、パネル体 10 を下端固定部材 20 の受入溝 21 に沿って幅方向に移動させる。また、図 6（b）に示すように、他方のパネル体 10 の凹部 17 のパネル厚さ方向両側を区画する面材 19、19 の側端部を、一方のパネル体 10 の突部 16 を構成する縦枠 15 に対して適宜の固着具によって固定する。このように順次、パネル幅方向に隣接させて複数のパネル体 10 を設置し建物内の内装壁を構築するようにしてもよい。なお、各パネル体 10 の下端部 14 は、受入溝 21 に嵌め込まれているため固着具 30 によって下端固定部材 20 に対して固定しないようにしてもよい。例えば、後記するように、端部や出入口の開口幅方向両側に配されるパネル体 10 の端部側や出入口側の側端部の下端部 14 のみを固着具 30 によって下端固定部材 20 に対して固定するようにしてもよい。

上記のようにパネル体 10 が設置された本実施形態に係る内装壁構造は、パネル体 10 の下端部 14 が、下端固定部材 20 の受入溝 21 に嵌め込まれ、パネル体 10 の上端部が上端固定部材 24 に固定された構造とされている。

【0044】

次いで、図 1（a）、（b）に示すように、床下地 5、6 に固定された下端固定部材 20 のパネル厚さ方向両側に床材 8、8 を配設するようにしてもよい。また、下端固定部材 20 のパネル厚さ方向両側に配設された床材 8、8 とパネル体 10 の下端部 14 との入隅部を覆うように、造作材としての幅木 25、25 を配設するようにしてもよい。これら幅木 25、25 は、適宜の固着具や接着剤等によってパネル体 10 等に固定するようにしてもよい。

また、パネル体 10 の厚さ方向両側の面材 19、19 の上端部の表面に側端面を当接させてパネル厚さ方向両側の天井パネル 4、4 を野縁 3 に固定するようにしてもよい。このように天井パネル 4 が設置された本実施形態に係る内装壁構造は、面材 19 の上端部の表面に側端面を当接させて天井パネル 4 が天井下地としての野縁 3 に固定されている。このような構成とすれば、天井パネル 4 の下面 4a と面材 19 の上端面 19a とが同一平面状とされるようなものと比べて、天井パネル 4 と面材 19 との間に隙間が形成され難く、天井パネル 4 の側端面を面材 19 の上端部の表面に安定的に当接させることができる。これにより、面材 19 の表面や天井パネル 4 の下面 4a に壁クロス等の化粧シートを貼着する場合にも納まり良く貼着することができる。

【0045】

また、図 6（c）に示すように、他のパネル体 10 が幅方向一方側に配設されない端部を構成するパネル体 10 の凹部 17 に、スペーサー 26 を嵌め入れ、このスペーサー 26 及び両側の面材 19、19 の端面を覆うようにカバー材 27 を固定するようにしてもよい。図例では、カバー材 27 を、このカバー材 27 のパネル厚さ方向に沿う方向の両端面がパネル体 10 の厚さ方向両面と略同一平面状となるように固定した例を示している。これらスペーサー 26 及びカバー材 27 は、木質系材料や合成樹脂系材料等から形成されたものでもよい。また、カバー材 27 は、パネル体 10 の面材 19、19 と同種ボードからなるものとしてもよい。また、このカバー材 27 のパネル厚さ方向に沿う方向の両端部の両方または一方を、R 面取り状等の面取り形状としたり、カバー材 27 のパネル厚さ方向に

沿う方向の両端部の両方または一方に、面取り形状とされた別部材を設けた構成としてもよい。また、パネル体10の凹部17に嵌め入れられるスペーサー26は、施工現場において嵌め入れられるものに限られず、例えば、工場等の施工現場外において予め嵌め入れられたものでもよい。

【0046】

また、図7(a)に示すように、パネル体10、10同士がコーナー部を形成するように交差する部位では、一方のパネル体10の厚さ方向一方面に、他方のパネル体10の凹部17が設けられた側の幅方向一端面を突き合わせるように配設するようにしてもよい。また、幅方向一方側に他のパネル体10が配設されない一方のパネル体10の凹部17に、上記同様、スペーサー26を嵌め入れ、このスペーサー26を覆うようにカバー材27を固定するようにしてもよい。また、この一方のパネル体10の厚さ方向一方面に、連結部材を構成するスペーサー26を固着具30によって固定するようにしてもよい。このスペーサー26は、下端部が下端固定部材20の受入溝21に嵌め込まれるものでもよい。また、このスペーサー26を、その一側面が一方のパネル体10の幅方向一端面と同一平面状となるように固定した例を示している。また、図例では、このスペーサー26を、一方のパネル体10の凹部17に嵌め込まれたスペーサー26に止着した固着具30によって固定した例を示している。そして、このように一方のパネル体10の厚さ方向一方面に固定されたスペーサー26を凹部17に受け入れるようにして他方のパネル体10を設置し、この他方のパネル体10の面材19、19の側端部を固着具によってスペーサー26に固定した例を示している。なお、コーナー部を形成するパネル体10、10同士の接合態様としては、このような態様に限られず、種々の変形が可能である。また、平面視してT字状に交差する部位でも上記と概ね同様、連結部材を構成するスペーサー26を介して他のパネル体10の厚さ方向一方面に突き合わせられるパネル体10の端部を固定するようにしてもよい。この場合において、他のパネル体10の面材19の裏面側に縦枠15、15Aが存在しない箇所にスペーサー26が固定される場合には、このパネル体10内に上記した下地板18(図3(c)参照)を設けておくようにしてもよい。

【0047】

また、図7(b)に示すように、建具29によって開閉される出入口を区画する部位では、開口幅方向両側のパネル体10、10の各凹部17、17にスペーサー26を嵌め入れ、このスペーサー26を覆うように戸枠28、28を固定するようにしてもよい。また、戸枠28、28の互いに向き合う見込面に、建具29としての開き戸が当接または近接される戸当たり部28a、28aを設けた例を示している。なお、建具29としては、開き戸に限られず、引戸や折戸であってもよい。また、図例では、戸枠28、28を固定枠状とした例を示しているが、額縁状部材を備えたケーシング枠状とされたものであってもよい。また、出入口の上側に垂れ壁が設けられる場合には、出入口の両側のパネル体10、10の上端側部位に面材19、19が貼着されていない非貼着部位を設け、施工現場において垂れ壁の部位と非貼着部位とに一連状に面材が貼着される構成としてもよい。

【0048】

また、図8(a)に示すように、集合住宅等の戸境壁や外壁、浴室ユニットの壁パネル等の壁面9に沿わせるようにふかし壁状にパネル体10Cを施工する際も上記と概ね同様にして施工することができる。この例では、上記したパネル厚さ方向一方側のみに面材19を設けたパネル体10Cを、面材19が設けられた側が室内側を向き、面材19が設けられていない側(芯材11が全面に亘って露出している側)が壁面9側を向くように施工する構成としている。また、この例では、上端固定部材24を、壁面9に当接させ、壁面9と野縁3との間に挟み込むように配設し、野縁3に固定した例を示している。また、上記と概ね同様、複数枚のパネル体10Cを壁面9に沿わせて直列状に配したり、コーナー部が設けられた壁面9に沿わせてコーナー部を形成するように配したりしてもよい。また、上記と概ね同様、このパネル体10Cの反壁面側(室内側)に、天井パネル4及び床材8を施工し、床材8とパネル体10Cの下端部14との入隅部を覆うように、幅木25を配設するようにしてもよい。

【0049】

なお、上記施工手順は、一例に過ぎず、各部材の機能を阻害しない限りにおいて別手順で行うようにしてもよく、種々の変形が可能である。また、上記した例では、パネル体10、10Cの上端部と天井パネル4との入隅部に廻縁を設けていない例を示しているが、廻縁を設けた構成等としてもよい。また、上記した例では、下端固定部材20、つまり、パネル体10、10Cを、支持脚7の直上に位置するように設けた例を示しているが、このような態様に限られない。また、天井側や床側に段差がある箇所に跨るように複数枚のパネル体10、10Cを施工する場合には、上記した各部材や、施工態様、接合態様等を、適宜、必要に応じて変形するようにしてもよい。

【0050】

次に、上端固定部材の変形例について、図8(b)を参照しながら説明する。

なお、上記した例との相違点について主に説明し、同様の構成については、同一の符号を付し、その説明を省略または簡略に説明する。

本変形例では、内装壁装置1Aが備える上端固定部材24Aを、ブロック状ではなく、板状の片部24b、24c、24dを備えた構成としている。図例では、上端固定部材24Aに、パネル体10の上端部が固定される上端固定片部24bと、この上端固定片部24bの一端部から立ち上がり、野縁3に固定される下地固定片部24cと、を設けた例を示している。また、上端固定部材24Aに、下地固定片部24cに対向状に配され、上端固定片部24bの他端部から立ち上がる対向片部24dを設けた例を示している。つまり、上端固定部材24Aは、野縁3の長手方向に見て、上向き開口の略コ字状（略U字状）とされている。また、図例では、下地固定片部24cの上下方向に沿う寸法を、対向片部24dの上下方向に沿う寸法よりも大とした例を示している。この上端固定部材24Aは、金属系材料から形成されたものでもよい。

【0051】

このような上端固定部材24Aを用いた内装壁構造も上記同様にして施工可能である。

なお、上端固定部材24Aとしては、上端固定片部24bと下地固定片部24cとを備えた略L字状とされたものであってもよい。また、上端固定部材24Aとしては、上記したような態様に限られず、その他、種々の構成とされたものの採用が可能である。また、上記した例では、本実施形態及び変形例に係る内装壁装置1、1Aを用いた内装壁施工方法及び内装壁構造について説明したが、上記内装壁施工方法及び内装壁構造は、他の内装壁装置を用いた施工方法及び構造であってもよい。例えば、上記した上端固定部材24、24Aやパネル体10、下端固定部材20のうちの少なくとも一つが施工現場において手配されたものであってもよい。また、上記した例では、上端固定部材24、24Aを、野縁3の側部に固定されるものとした例を示しているが、野縁3自体をパネル体10の上端部が固定される上端固定部材としてもよい。上記実施形態及び変形例において説明した各部材としては、その他、種々の変形が可能である。

【符号の説明】

【0052】

1, 1A	内装壁装置
10, 10A～10C	パネル体
10a	上端面
11	芯材
11a	上端面
12	上枠
12a	配線用の開口
14	下端部
15	縦枠
15a	凹段部
18	下地板
19	面材

10

20

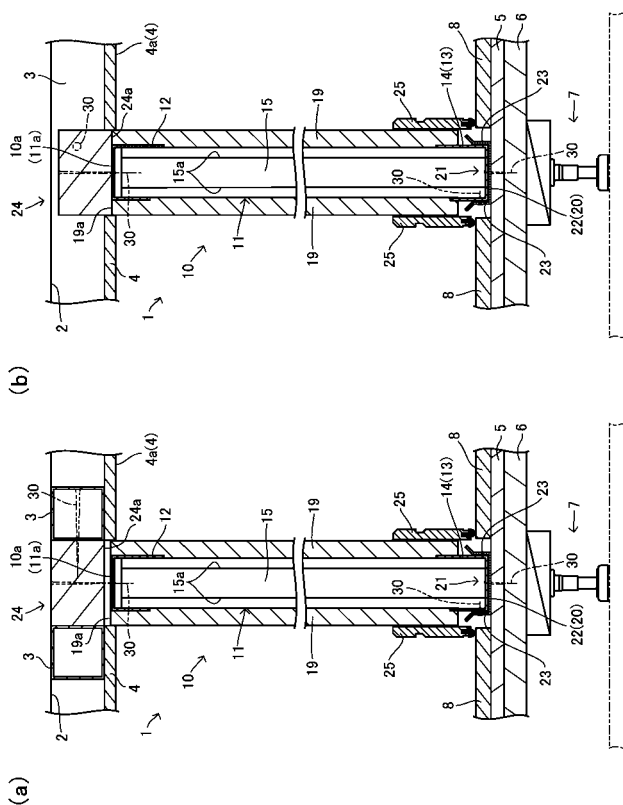
30

40

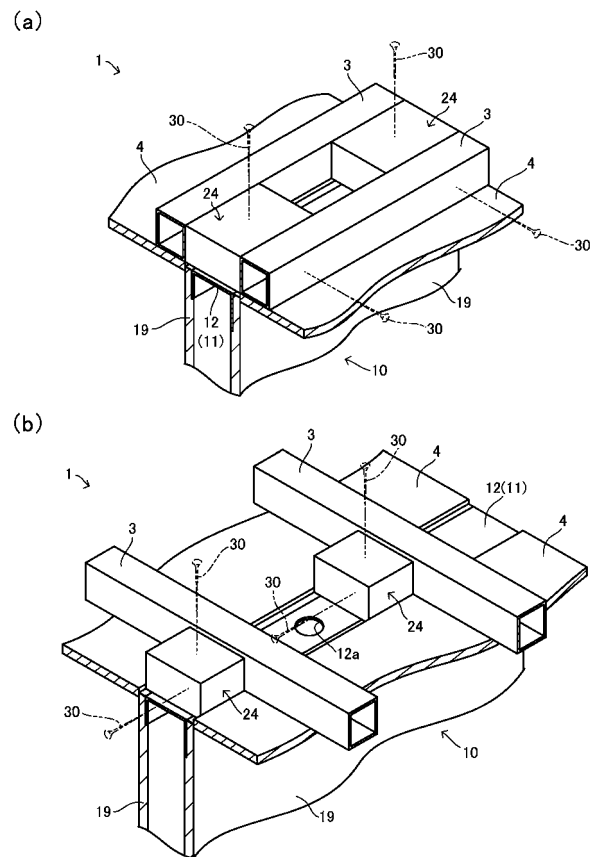
50

19 a	上端面
20	下端固定部材
21	受入溝
22	溝底片部
23	側片部
23 a	傾斜片部（上端側部位）
24, 24 A	上端固定部材
24 a	下面
3	野縁（天井下地）
4	天井パネル
4 a	下面
5, 6	床下地
7	支持脚
30	固着具

【図 1】

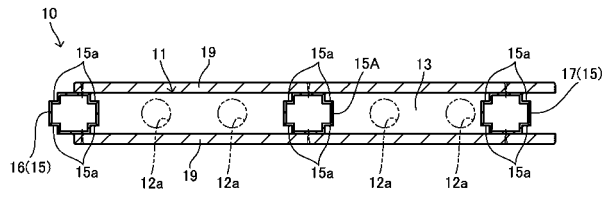


【図 2】

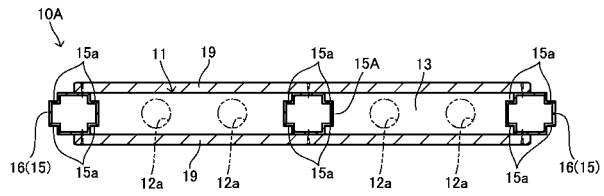


【図 3】

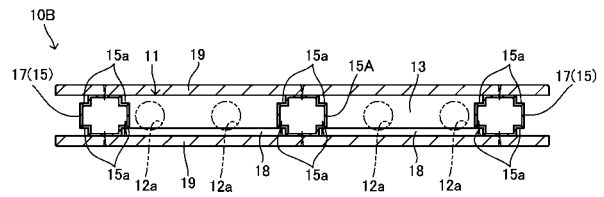
(a)



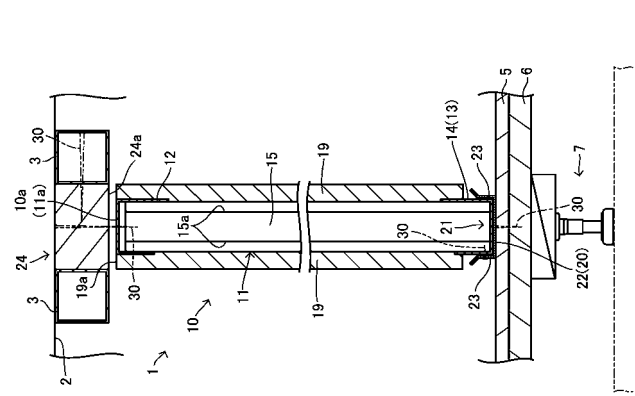
(b)



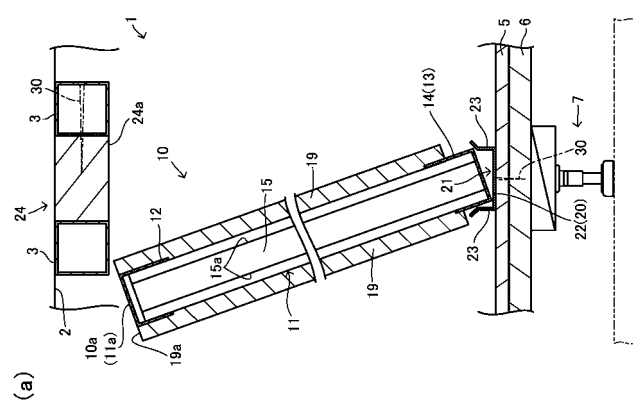
(c)



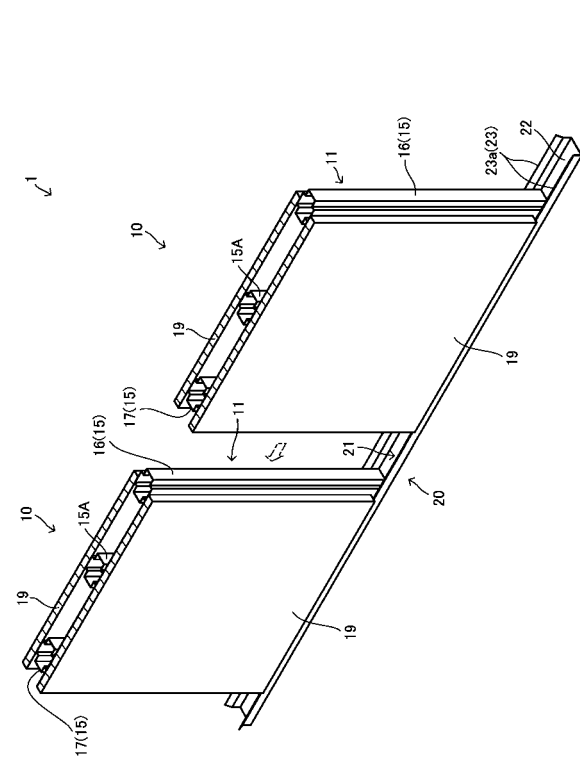
【図 4】



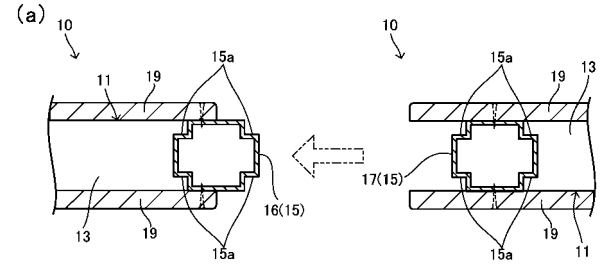
(b)



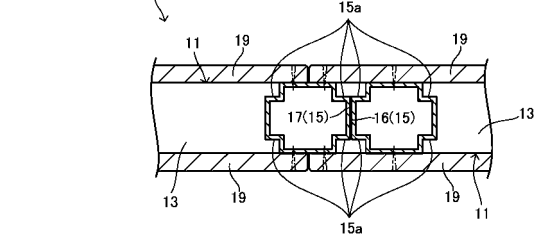
【図 5】



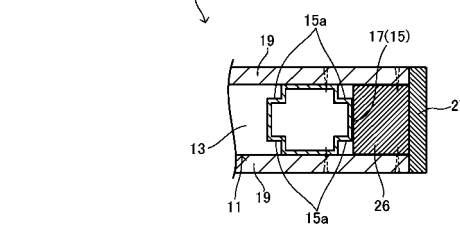
【図 6】



(b)

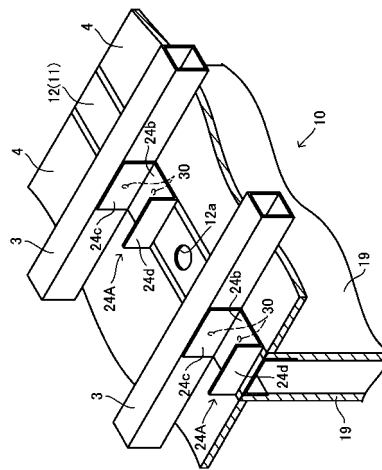


(c)

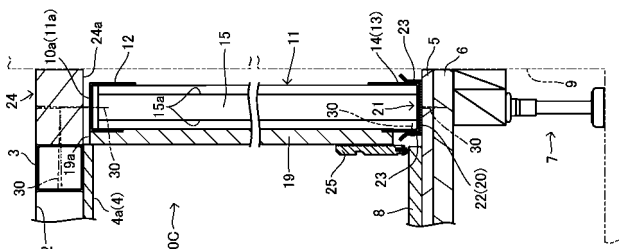


【图 8】

(9)



(9)



(a)

フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

E 0 4 B 9/30

A

テーマコード (参考)